

## 製品安全データシート

作成 2004年08月23日  
改訂 2010年12月28日

## 1. 製品及び会社情報

製品名 : 10% SDS Solution  
製品コード : 311-90271、313-90275  
会社名 : 株式会社ニッポンジーン  
住所 : 富山県富山市問屋町 1-8-7  
担当部門 : 研究試薬部 品質管理課  
電話番号 : 076-451-6548  
FAX 番号 : 076-451-6547

## 2. 危険有害性の要約

10% SDS Solution(ドデシル硫酸ナトリウム)について記載

GHS 分類 : 皮膚腐食性・刺激性 : 区分 2  
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性 : 区分 2  
特定標的臓器・全身毒性(単回暴露) : 区分 3 (気道刺激性)  
特定標的臓器・全身毒性(反復暴露) : 区分 2 (腎臓)  
水生環境急性有害性 : 区分 2

GHS ラベル要素  
注意喚起語

警告

危険有害性情報 : 皮膚刺激  
強い眼刺激  
呼吸器への刺激のおそれ  
長期にわたる、または、反復ばく露により腎臓の障害のおそれ  
水生生物に毒性

注意書き

- 【安全対策】 適切な保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。  
取扱い後はよく手を洗うこと。  
適切な保護手袋、保護衣を着用すること。  
粉塵、ヒューム、蒸気、スプレーの吸入を避けること。  
屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。  
粉塵、ヒューム、蒸気、スプレーを吸入しないこと。  
環境への放出を避けること。
- 【応急措置】 皮膚に付着した場合、多量の水と石鹼で洗うこと。  
皮膚に付着した場合、皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。  
汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること。  
眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用してい  
て容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。  
眼に入った場合、眼の刺激が続く場合は、医師の診断、手当てを受けること。  
吸入した場合、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。  
気分が悪い時は、医師に連絡すること。  
気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。
- 【保管】 施錠して保管すること。  
換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。
- 【廃棄】 内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

上記で記載が無い危険有害性は対象外又は分類できない

### 3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物区別	混合物
化学名または一般名	ドデシル硫酸ナトリウム
濃度	10%
化学特性(化学式)	C <sub>12</sub> H <sub>25</sub> SO <sub>4</sub> Na
CAS 番号	151-21-3
官報公示整理番号	2-1679
危険有害成分	ドデシル硫酸ナトリウム

### 4. 応急措置

吸入した場合	: 気分が悪い時は、医師に連絡すること。 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
皮膚に付着した場合	: 多量の水と石鹼で洗うこと。 直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぐこと、取り除くこと。 汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること。 皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。
目に入った場合	: 水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。医師に連絡すること。 目の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当てを受けること。
飲み込んだ場合	: 水で口をすすぐこと。気分が悪い時は、医師に連絡すること。

### 5. 火災時の措置

消火剤	: 粉末消火薬剤、泡消火剤、二酸化炭素、乾燥砂、水噴霧
火災時の特有危険有害性	: 火災時に刺激性もしくは有害なガスを発生するため、消火の際には煙を吸い込まないように適切な保護具を着用する。
特有の消火方法	: 危険でなければ火災区域から容器を移動する。 安全に対処できるならば着火源を除去すること。
消火を行う者の保護	: 消火活動は風上から行い、有害なガスの吸入を避ける。状況に応じて呼吸保護具を着用する。

### 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	: 作業の際には適切な保護具を着用する。 漏出物との接触を避ける。 蒸気の吸い込みを避ける。
環境に対する注意 回収、中和	: 環境中に放出してはならない。 : 漏出した液は、吸着剤、ウエス、雑巾で吸着させ適切な廃棄処理を行う。

### 7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	
技術的対策	: 「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
局所排気・全体換気	: 「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の局所排気、全体換気を行う。
安全取扱い注意事項	: 取扱い後はよく手を洗うこと。 この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。 粉じん、ヒューム、蒸気、スプレーを吸入しないこと。 飲み込まないこと 皮膚との接触を避けること 眼に入れないこと

---

**保管**

適切な保管条件	: 製品は直射日光を避け、密閉して保管する。
技術的対策	: 特になし
混触禁止物質	: 「10. 安定性及び反応性」参照
安全な容器包装材料	: ガラス、ポリエチレン、ポリプロピレン

---

**8. 暴露防止及び保護措置**

設備対策	: 蒸気やミストが発生する場合は、発生源を密閉し、局所排気装置を設置する。
管理濃度 作業環境評価基準	: 設定されていない。
許容濃度 ACGIH (TLV)	: 設定されていない。
日本産業衛生学会	: 設定されていない。

**保護具**

呼吸器の保護具	: 保護マスク
手の保護具	: 保護手袋
眼の保護具	: 保護眼鏡
皮膚及び身体の保護具	: 長袖作業衣

---

**9. 物理的及び化学的性質**

形状、色	: 無色透明の液体
臭い	: 無臭
pH	: データなし
融点	: データなし。
沸点(初留点)	: データなし。
引火点	: データなし。
自然発火温度	: データなし。
爆発範囲(上限・下限)	: データなし。
蒸気圧	: データなし。
蒸気密度	: データなし。
比重	: データなし。
溶解性	: 水に混和する。

---

**10. 安定性及び反応性**

安定性	: 通常条件では安定
危険有害反応可能性	: 燃焼すると分解し、一酸化炭素やイオウ酸化物を含む有毒で腐食性のガスを生じる。 強酸化剤や強酸と反応する。
避けるべき条件	: 日光、熱
混触危険物質	: 強酸化剤、強酸
危険有害な分解生成物	: 一酸化炭素やイオウ酸化物を含む有毒で腐食性のガス

---

**11. 有害性情報**

ドデシル硫酸ナトリウムについて記載

急性毒性	: 経口 ラット LD <sub>50</sub> : 1200mg/kg <sup>1)</sup> 、2730 mg/kg 本製品は、ドデシル硫酸ナトリウムの含有量は10%のため1200mg/kgとなり、区分外。
	: 経皮 ウサギ LD <sub>50</sub> : 600mg/kg <sup>1)</sup> 、580 mg/kg 本製品は、ドデシル硫酸ナトリウムの含有量は10%のため580mg/kgとなり、区分外。
	: 吸入 データなし。
皮膚腐食性・刺激性	: ウサギを用いた皮膚刺激性・腐食性試験(OECD TG 404、GLP)において、PII: 6.0, 6.78 から「highly irritating」(ECETOC TR66(1995)、IUCLID(2000))と記述されているが、 回復性に関する記述がないので区分2とした。

眼に対する重篤な損傷・刺激性	: ウサギを用いた眼刺激性・腐食性試験(OECD TG 405、GLP)において、「Modified Maximum Average Scores : 16.00 ; moderately irritating, 59.17 ; irritating, 60.50 ; irritating」(ECETOC TR48(1992)、IUCLID(2000))と記述されているので区分2とした。
呼吸器感受性又は皮膚感受性	: 呼吸器感受性: データがないので分類できない。 皮膚感受性: モルモットを用いた Maximization 試験で皮膚感受性を示さない (ECETOC TR77(1999))と記述されているので区分外とした。
生殖細胞変異原性	: 生殖細胞 in vivo 変異原性試験の小核試験で陰性(SIDS(1991)、EHC 169(1996))と記述されているので区分外とした。
発がん性	: 主要な国際的評価機関による評価がなされておらず、データが不十分なので分類できない。なお、「長期試験は行われているが、発がん性評価には不十分である。動物に混餌投与した試験では、アルキルサルフェイトの発がん性の証拠は得られなかった」(EHC 169(1996))旨の記述がある。
生殖毒性	: EHC 169(1996)に記載の一次文献(東京衛研年報 (1976))によると、「マウス皮膚塗布による催奇形性試験において、母動物の体重増加が抑制された用量で、受胎率の低下、胎仔重量が低下し、発育遅延を認めた。口蓋裂や骨化遅延もみられるが有意なものではなく、本実験の口蓋裂の発生や着床の問題も含め、経口投与での試験の必要性がある」旨の記述があり、データ不足から分類できない。
特定標的臓器・全身毒性(単回暴露)	: マウス、ウサギ、モルモットでのエアロゾル暴露で気道刺激性がみられる(IUCLID (2000))、短期暴露で気道刺激性がみられる(ICSC(1997))との記述から区分3(気道刺激性)とした。
特定標的臓器・全身毒性(反復暴露)	: ラットを用いた2週間混餌投与試験において「肝臓重量増加がみられたラットの病理組織検査で、肝細胞がわずかに腫脹し分裂肝細胞数が増加していた。これらは本物質の投与に順応したものと考えられる。また、腎尿細管の上皮細胞の空胞変性、腎糸球体の萎縮がみられた」(EHC 169(1996))旨の記述がある。これらの症状は区分2のガイダンス値の範囲内で見られているが、肝臓における症状は、本物質の投与による有害影響とは考えられないので採用せず、区分2(腎臓)とした。なお、ウサギを用いた3ヶ月間経皮投与試験では「用量依存性の皮膚刺激性がみられた」(EHC 169(1996))旨のみ記述されている。
吸引性呼吸器有害性	: データなし。

## 12. 環境影響情報

ドデシル硫酸ナトリウムについて記載

生態毒性	: 甲殻類(アメリカンロブスター) LC <sub>50</sub> : 0.72mg/L/96H (SIDS,1997) ドデシル硫酸ナトリウムの含有量は10%のため7.2mg/L/96Hとなる。 本製品は、水生環境急性有害性 区分2とする。
残留性・分解性	: 急速分解性が有り (SIDS, 1997)
生体蓄積性	: 生物蓄積性が無い (LogKow=1.6, PHYSPROP) と推測される。
土壌中の移動性	: データなし。 本製品は、急速分解性が有り、生物蓄積性が無いと推測されるため水生環境慢性有害性は区分外とする。

## 13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	: 正式許可を得た処理業者に内容を明確に開示して処理を委託する。 廃棄においては関連法規ならびに地方自治体の条例に従うこと。
汚染容器及び包装	: 容器は洗浄してリサイクルするか、関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切に処分する事。空容器を廃棄する場合、内容物を完全に除去した後に処分する。

## 14. 輸送上の注意

国連番号	: 非該当
国連分類	: 非該当
海洋汚染物質	: 非該当
注意事項	: 運搬に際しては容器に漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないよう積み込み、荷ずれの防止を確実にこころう。

---

**15. 適用法令**

消防法 : 非該当  
毒物及び劇物取締法 : 非該当  
労働安全衛生法 : 非該当  
化学物質管理促進法 (PRTR 法) : 第一種指定化学物質 No.275

---

**16. その他の情報**

引用 GHS 分類結果 nite 独立行政法人 製品評価技術基盤機構 HP  
<http://www.safe.nite.go.jp/ghs/list.html>  
GHS モデル MSDS 情報 中央労働災害防止協会 安全衛生情報センター HP  
[http://www.jaish.gr.jp/anzen/gmsds/gmsds\\_index.html](http://www.jaish.gr.jp/anzen/gmsds/gmsds_index.html)  
原料試薬供給先から提供された MSDS

---

\*危険・有害性の評価は必ずしも十分ではないので、取扱いには十分注意して下さい。

\*本データシートは情報を提供するものであって、記載内容を保証するものではありません。